

研究機関名：仙台医療センター

受付番号：

【研究課題名】

末梢性顔面神経麻痺の臨床的特徴、治療成績に関する検討

【研究期間】

西暦 2021 年 5 月(倫理委員会承認後) ～ 2023 年 5 月

【研究の対象】

2012 年～2021 年の間に、当院で入院加療を行った末梢性顔面神経麻痺の患者様

【研究の目的・方法】

末梢性顔面神経麻痺は、標準的な治療が確立されたと言える現在においても、依然として完全回復が得られずに、後遺症（麻痺や病的共同運動）残存によって Quality of life（生活の質）の低下を来す方がいらっしゃるという問題点を抱えています。治療法の選択や介入の仕方については、発病早期から麻痺の程度や治る見込み（予後）を予測し、予後不良予測例には早期から十分かつ適切な治療を提供することが求められている一方で、早期に麻痺程度の確実な評価や予後判定を行う方法は依然として確立されていません。当院は仙台市内/宮城県内においても有数の治療施設で症例集積が豊富であることに加え、現行機器の中では最も予後予測に有効とされる誘発筋電図検査の導入と早期からの経時的な頻回のデータ測定、それに基づいた予後不良例の早期抽出、さらには最重症の方には標準治療以外にも補助的治療の併用を行っており、十分な臨床経験の蓄積があります。そのような状況を背景に、当院で入院加療を行った末梢性顔面神経麻痺の症例の臨床的特徴ならびに治療成績を明らかにし、今後の臨床診療へのフィードバックや有益な情報の発信により医学の進歩に繋げることを目的として研究を行います。研究方法は、当院で入院加療を行った症例を対象に、臨床経過、検査結果、治療内容、ならびにそれらに関連した治療予後について調査、ならびに統計解析を行います。

【研究に用いる試料・情報の種類】

診療録から、年齢、性別、合併症、片側・両側・交代性の別、麻痺の程度、併存症状、治療介入時期、治療内容、誘発筋電図検査結果や聴覚学的検査、治療予後の情報を収集します。

【外部への試料・情報の提供】

収集した情報の外部への提供はありません。研究解析の結果、得られた有益な医学的データは、研究対象者の個人情報を含まず、個人特定ができない形の統計学的データとして学会や学会誌に公表する可能性があります。

【試料・情報を利用する者の範囲】

舘田 勝 所属：仙台医療センター耳鼻咽喉・頭頸部外科医長、役割：研究指導
 長谷川 航生 所属：仙台医療センター耳鼻咽喉・頭頸部外科医師、役割：研究実施
 小笠原 真理 所属：仙台医療センター耳鼻咽喉・頭頸部外科医師、役割：研究実施

【問い合わせ先】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

また情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

仙台医療センター 耳鼻咽喉・頭頸部外科 石田 英一 (代表研究者)

〒983-8520 仙台市宮城野区宮城野2-11-12

TEL: 022 - 293 - 1111

FAX: 022 - 291 - 8114